

令和3年度第1回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	令和3年11月25日(木) 13時30分～15時30分
場 所	小牧市役所 本庁舎4階 404会議室
出席者	<p><b>【委員】</b>(敬称略)</p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校          佐々木 成高 小牧市歯科医師会代表          福澤 広 小牧市薬剤師会代表          櫻井 佐穂 公益社団法人 愛知県歯科衛生士会代表          吉元 寛子 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表          田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表          野口 弘美 保健センター所長補佐          木村 正尚 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表</p> <p><b>【欠席委員】</b></p> <p>前川 泰宏 一般社団法人 小牧市医師会代表          堀江 京子 小牧市介護相談員代表</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>伊藤 俊幸 福祉部 部長          松永 祥司 福祉部 次長          西島 宏之 福祉部 地域包括ケア推進課長          平手 明仁 福祉部 介護保険課長          倉知 佐百合 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係長          吉嶺 涼太 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係主事補          三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者          四宮 貴美子 小牧地域包括支援センターふれあい管理者          金田 泰丈 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者          高田 かおる 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者          岡田 江里子 北里地域包括支援センターゆうあい管理者</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 評価結果(レーダーチャート)</p> <p>資料2 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について</p> <p>参考資料1 市町村及び地域包括支援センターの評価指標</p> <p>参考資料2 令和2年度 小牧市地域包括支援センター事業報告(各包括のまとめ)</p> <p>当日資料 小牧市地域包括支援センター運営協議会委員名簿 配席表</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤福祉部長あいさつ</li> <li>・長岩会長あいさつ</li> </ul> <p>2. 議事</p> <p>(1) 令和2年度地域包括支援センター事業の評価について</p>
--

#### 【市の評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。
- 佐々木委員
  - ・多職種の連携について、今後も今回と同じ状況が起こり得ることに備えることが必要である。歯科医師会の集まりでは、Zoom等でオンライン参加可能な体制が整っており、オンラインの方が出席率が高い。
  - ・歯科医師会だけでなく、様々な職種の方にもオンライン参加可能な体制が整備されていくと、オンライン勉強会などが開催できる。
  - ・効果の程は別問題だが、デジタル庁が設立されたこともあるので、市を中心に検討していただきたい。
- 長岩会長
  - ・市のオンラインで実施できる環境は整備されているのか。
- 事務局
  - ・オンライン環境については、市も含めて、事業所・関係機関も整備されていると思う。研修においては、ウェブ上でのグループワークが技術的な面も含めて課題となっており、難しい部分もあるのではないかと認識している。
  - ・オンライン研修、勉強会などについては、広く啓発等を進めながら実施していきたいと考えている。

#### 【南部地域包括支援センターケアタウン小牧の評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・南部地域包括支援センター管理者より、令和2年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。
- 木村委員
  - ・新たに民生委員になった方を中心に勉強会を開催された。また、今年度は認知症のサポート研修を新しい民生委員の方8名を中心に実施するなど、非常によく取り組んでいただいていると思う。
  - ・評価結果のグラフのバランスがよく、今後もコロナウイルスの影響が収束していけば活動範囲も広がると思うため、ぜひ12月以降、3月までの間にできることはしっかり取り組んでいただき、次年度に繋げていただきたいと思います。
- 田中委員
  - ・新しく取り組まれた部分としてSNSの配信とあるが、どれぐらい反応があるのか。
- 事務局(南部地域包括支援センター)
  - ・具体的な閲覧数は不明だが、県外も含めた同じ地域包括支援センターが「いいね！」を押してくださることや、SNS配信をしている市内の事業所などと共有できている。その一方で、一般の市民の方が見ているといった印象はあまりないと感じている。
- 田中委員
  - ・せっかくの新しい取り組みであり、良い取り組みであると思うので、啓発活動を続けていただきたい。
- 長岩会長
  - ・見てほしい人が見ているかどうか確認できない点が、SNSの難しいところではある。「いいね！」を押してくれた人が、見てほしい人たちが見ているのか、確認できないところが頭の痛いところ

ろではあるが、これもコロナ禍での1つの工夫だと思う。

- ・先ほど説明のあった、外での活動というのは屋外ということか。

○事務局(南部地域包括支援センター)

- ・そうである。地域で月に1回大山川を清掃する「大山川を美しくする会」に参加をしている。地域の方々と清掃をしながら会話をし、こちらから様子を尋ねることもできるようになった。

#### 【小牧地域包括支援センターふれあいの評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・小牧地域包括支援センター管理者より、令和2年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○吉元委員

- ・新任の方が半分ぐらいいるとのことだが、どのように教育したのか。

○事務局(小牧地域包括支援センター)

- ・相談業務の経験がない者もいたため相談の基本から教えた。コロナ禍のため、現場に出る、同行することが難しい時期もあったが、できる限り現場の利用者と会い、地域の方と交流できるように努めた。

○長岩会長

- ・4人の新任の方の職種はどういう内訳なのか。
- ・地域包括支援センターの仕事は初めてだが、前職で経験があるということなのか。

○事務局(小牧地域包括支援センター)

- ・社会福祉士が3名で看護師が1名である。
- ・社会福祉士は大学卒業後に入職した者、入職後2年目の者、過去に相談業務の経験がある者で、看護師は初めて相談業務に就く者である。
- ・過去に相談業務の経験があるとすぐに活動に入っていくことができたため、相談業務の経験の有無が大きく影響した。

○野口委員

- ・山北地区は高齢の方が多く、核となって動いていただけの方がなかなかいないと耳にしたが、その中で地域支え合い推進員と地域包括支援センターがどのように今後関わっていくのか、計画があれば教えていただきたい。また、どのように今までやってきたのかも教えていただきたい。

○事務局(小牧地域包括支援センター)

- ・山北住宅の中で顔の見える関係づくりの形成を狙い、予防教室を数回開催したが集まりが少なく、ハードルの高さを感じた。
- ・山北住宅から相談が入った場合、複雑化しているケースが多いため、複雑化する前に少しでも早く相談に乗りたいと考えている。そのため年に3、4回を目標に、地域包括支援センターのチラシを居住している外国人の方も読めるよう、4か国語ほど言葉を変えて全棟のポストに配布し、周知を行っている。
- ・今後は現状のコミュニティーが薄いため、区長や管理人の方と相談をして、少しでも集まれる人にどんなアプローチをしていこうか考えていきたい。

○野口委員

- ・地域を回り、地域包括支援センターの周知をしたことで、拾い上げてきたケースはあるのか。

○事務局(小牧地域包括支援センター)

・チラシを持って相談に来た方が印象に残っている。主な内容は生活困窮者に関わる内容であったが、地域包括支援センターだけに留めず、そこから繋げていくことを心掛けて行っている。

○長岩会長

・山北地区のように民生委員が不在のところは、予防啓発のチラシを民生委員の会合で配布し、そこから地域へというルートが使えなくなるが、職員で手分けをして配布をするのか。

○事務局(小牧地域包括支援センター)

・職員だけで山北住宅は一戸ずつ回覧を配布する。その中で職員が感じた気になる世帯をチェックし、情報を共有して必要があればアプローチをしていくことを考えている。

○長岩会長

・民生委員がいない地域は、代理民生委員のような民生委員ではないが代わりになるような人は、現状では難しいか。

○事務局(小牧地域包括支援センター)

・今の段階ではなかなか難しいが、地域包括支援センターがいつもそこに密着するのではなく、コミュニティが形成される中で、代理民生委員のような方が現れてくるとよいと感じている。

#### 【味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷の評価結果】

・事務局より、資料1を用いて説明。

・味岡地域包括支援センター管理者より、令和2年度に重点的に取り組んだことの説明。

・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

・コロナ禍でも回覧や広報のような資料の配布や、コンビニ等の販売と地域との接触も進めようとされているが、他にどのような方法があるのか、今の時点で考えがあればお示しいただきたい。

○事務局(味岡地域包括支援センター)

・今年度の取り組みとして、移動販売に相談機能を持たせるため、地域包括支援センターも同行して相談対応をしており、地域の状況把握や課題の早期発見、対応に繋げている。

・地域への回覧、啓発というところでは「さとだより」を必ず発行しており、地域で注意していただきたいことの啓発や予防に繋げている。また、「さとだより」の移動販売のお知らせから他の地区でも移動販売を望む声があがり、移動販売の展開に繋がったところもあるため、情報の発信もしっかり行っていきたいと考えている。

○長岩会長

・この移動販売は、どこかのコンビニが知らないうちにやっていたということなのか。

○事務局(味岡地域包括支援センター)

・コンビニが事業として展開していることに地域包括支援センターが気づき、施設向けに実施していたところを地域でもやっていただけないか打診をした。結果、良い返事をいただくことができ、現在地域支え合い推進員にも繋げて取り組みが広がっている状況である。

○長岩会長

・移動販売は全国チェーンのコンビニか。

・オーナーが店舗を運営しているため、全国で同じ展開をしていなくても、オーナーがやろうと思えば移動販売はできるのか。

○事務局(味岡地域包括支援センター)

・全国チェーンである。

・会社として事業を実施しているが、店舗は1つだと考えていただきたい。

○櫻井委員

- ・コンビニの移動販売はとても良い案であると思うので、医療や福祉で固めるのではなく各地域に声をかけて、コロナ禍において協力してくれる方々が増えれば良いと思う。
- ・それぞれの特技を活かしたものを社会資源として、皆さんと共用して住みやすいまち小牧市にしていくことができたらいと思う。

○長岩会長

- ・移動販売に相談機能を持たせるというのは、買い物に来た人がついでに相談できるように、コーナーを設ける形なのか。

○事務局(味岡地域包括支援センター)

- ・現在は移動販売を団地の方で実施しており、買い物に来た方や、その付近にいる方に声をかけ、必要があればベンチに座り相談に応じている。

○福澤委員

- ・他の地域包括支援センターの取り組みでは SNS を利用した啓発活動の促進が見られるが、味岡地域包括支援センターはそういった方面での促進はどうか。

○事務局(味岡地域包括支援センター)

- ・SNSが得意な職員がまだ十分にいないので、勉強して南部地域包括支援センターのようにできたら良いと考える。

○福澤委員

- ・これからはSNSを利用する時代が訪れてくるかもしれないので、それに対応できるような体制を十分に整えておく必要があると思う。
- ・職員の研修についてもSNSの環境整備促進のことも含めて考えていただきたい。

**【篠岡地域包括支援センター小牧苑の評価結果】**

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・篠岡地域包括支援センター管理者より、令和2年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○木村委員

- ・高齢化率が高く、今後も篠岡地区は高齢化率が上昇していくことが想定されるため、オレンジカフェへの参加をどのように促していくのかを頭において、取り組んでいただきたいと思う。

○事務局(篠岡地域包括支援センター)

- ・オレンジカフェの参加については住民主体型にしている。
- ・小牧市の半分近くが篠岡圏域ということもあり、移動手段がないことが課題であったため、福祉有償運送を行っている NPO 法人に送迎を依頼し、送迎が可能なオレンジカフェとして活動をしている。

○佐々木委員

- ・篠岡地域包括支援センターの事業報告を見ると、成年後見制度の利用が他の地区に比べてかなり少なく1件とあるが、何か理由があるのか。

○事務局(篠岡地域包括支援センター)

- ・令和2年度については成年後見制度の利用までには至らなかったということだと思う。
- ・どちらかというと虐待や、家族が面倒を見ることをやめて家に置いていかれた方といった、措置関連の方の権利擁護活動を行っている。

○佐々木委員

- ・ひとり暮らしの高齢者の方も多いのか。

○事務局（篠岡地域包括支援センター）

- ・周辺地区、農村部はまだまだ同居の方もいるが、桃花台は非常に高齢者の二人世帯やおひとり世帯も多い。

○長岩会長

- ・成年後見制度の利用が少ないのは、高齢化率が高い分家族で抱え込んでいるといったことや、ひとり暮らしが多いと申立てをする人がいないといった背景があるのか。

○事務局（篠岡地域包括支援センター）

- ・その点についてはまだ分析ができていない。

○長岩会長

- ・市の方で篠岡圏域の成年後見制度の利用が少ないことについて、分析していることはあるか。

○事務局

- ・詳細な分析は難しいところではあるが、ふれあいセンターの中にある権利擁護支援センターへの電話での相談や、自身で調べて成年後見制度の内容を理解されたところもあり、篠岡圏域において地域包括支援センターに相談をして繋がった方が1人だったと思われる。

【北里地域包括支援センターゆうあいの評価結果】

- ・事務局より、資料1を用いて説明。
- ・北里地域包括支援センター管理者より、令和2年度に重点的に取り組んだことの説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○長岩会長

- ・家族交流会ができなくなった期間もLINEで繋がることのできたとのことだが、これは意識的に繋がられたのか。

○事務局（北里地域包括支援センター）

- ・メンバーの中から集まりたいという思いもありLINE交換をされていたため、そこに地域包括支援センターも入れていただく形で繋がることのできた。

○長岩会長

- ・説明にあった地域協議会というのは、既に小牧市にある地域の協議会のようなものに入ることができたということか。

○事務局（北里地域包括支援センター）

- ・コロナ禍でなかなか地域との連携が取れていないこともあり、積極的に働きかけることで、毎月行っている地域協議会に、地域支え合い推進員と地域包括支援センターが今年度から参加させていただいている。

○長岩会長

- ・逆に言えば去年までは地域協議会とのやり取りがなかったということなのか。

○事務局（北里地域包括支援センター）

- ・地域協議会の立ち上げから関わっていたが、地域包括支援センターとして、正式に地域協議会に参加したのは今年度からである。

○櫻井委員

- ・全体的に言えることではあるが、今までの活動が気候良く暖かい屋外でのイベントであったが、これからの寒い冬には外に出るのを嫌がることも考えられる。そういった冬場や寒い時期はどのような企画を考えているか。

○事務局（北里地域包括支援センター）

- ・ウォーキングプログラムは行う場所をメンバーと相談しながら決めている。冬は場所の選定の

難しさはあるものの、季節ごとの良さがあるため、屋外に出ることで気分転換ができる有効な企画になるのではないかと考える。

- ・屋内の活動としては、北里市民センターで定期的に介護予防体操教室を開催している。また、こまき山体操も自主化していけたらいいと考える。

○吉元委員

- ・ウォーキングプログラムも家族交流会のLINEでの交流というのも、メンバーの自主的な活動によって形成されており、結束が固くて良いと思う。
- ・皆さんの気持ちがまとまり、みんなで頑張ろうと思える企画が大事だと思う。

【評価結果の比較】

- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○田中委員

- ・権利擁護の部分が各地域包括支援センターで数字が上がってきている点や、包括的・継続的ケアマネジメント支援の部分に、コロナ禍での数字の変化が顕著に現れていると感じた。
- ・困難事例の数字が多いところが目立つように感じられた。コロナ禍で虐待ケースや困難ケース、対応が重層的になるようなケースが非常に多くなってきた印象があったため、地域包括支援センターが対応をしてくれているというのは心強いと思った。
- ・介護予防や認知症予防という課題が地域包括支援センターの中にあると思うが、北里地域包括支援センターでは今後地域協議会と行っていきたいことや、働きかけのようなこれからの方向性などはあるか。

○事務局(北里地域包括支援センター)

- ・地域協議会の福祉部会に参加しており、12月5日に開催予定のひとり暮らしの高齢者の方に花を配る催しに参加をする。1軒1軒、民生委員と個別に訪問をする中で、潜在的なケースを拾いながら、地域包括支援センターでこれからどのように支援していくかを検討していきたいと考えている。
- ・地域協議会に参加することで小学校のPTAの方や小学校の校長先生、郵便局といった多種多様な地域の方と繋がりを持つことができている。また、地域協議会では個別地域ケア会議の報告をしており、参加者の皆様が気にかけていただけるといったメリットも生まれている。

○田中委員

- ・見守り隊や支え合い隊といった形で地域協議会も福祉部会でいろいろと活動しているため、そこに地域包括支援センターが働きかけていくのは非常に有効的であると思う。

○野口委員

- ・それぞれの圏域で気になっている地域を把握した上で、きちんと支援ができているのを見に行ってもらえるとありがたいと思う。
- ・小牧市の介護保険料も低いというところがあるとは思いますが、地道ないつもの介護予防や予防的な動きがいい状況にしていると思うので、いい支援を続けていただきたい。
- ・コロナ禍のため人との会話や接触がないことにより、認知症が進行してしまうことがあるため、引き続き今のように関わることを継続していただきたい。

○福澤委員

- ・外国籍の方とのコミュニケーション、言語、風俗、習慣、宗教といったいろいろな問題がある中での地域のコミュニティ形成をどうするのが、小牧市の大きな課題の1つではないかと思う。
- ・地域包括支援センターがどう関わっていくのか考えるためにも、小牧市において外国籍の多い地域のコミュニティの現状を情報収集していただくとありがたいと思う。

・コロナ禍が終わった後での、ウィズコロナ時代での予防支援や展開についてビジョンを持っていかなければならないと思った。

○長岩会長

・味岡地域包括支援センターでは外国籍の方への対応はどのようにしているか。

○事務局(味岡地域包括支援センター)

・市の関係する部署や地域包括ケア推進課に相談し、通訳できる方を間に介したりすることで対応したケースは何例かある。しかし、全体として各コミュニティの抱えている問題の把握についてはまだできておらず、そこが包括の役割なのか判断が難しいところであると思っている。

○長岩会長

・名古屋市では韓国系のコミュニティがあり、韓国系の居宅介護支援事業所もできている。一方で、要介護の方が増えてきている中国と東南アジアのところには全く手がついておらず、居宅介護支援事業所が非常に苦勞されている。

・名古屋市は国際センターがあるものの、どこで対応するかを明言していないため、地域包括支援センターに助けを求めても、言語の壁がありうまくいかないケースが増えてくることが予測される。

○佐々木委員

・口腔機能低下を迎えた方々をなるべく早く見つけて訓練し、介護予防の入り口でケアする体制というのは、どのように進めていけばよいか意見を頂戴したい。

・情報発信をしても聞いてほしい人が聞いていないといったことになりがちなため、食べこぼしやむせ、活舌が悪い、飲み込みが悪いといった、オーラルフレイルの方を早めに見つけるいい方法があれば教えていただきたい。

○事務局(南部地域包括支援センター)

・令和2年度の介護予防把握事業の結果では栄養と口腔が一番低かったため、今年度の予防講話、外に出向いての講話は全てオーラルフレイルに取り組んでいる。保健センターの専門の歯科衛生士に勉強させてもらい、いろいろなアイデアをいただき講話を行ったところ、参加者には関心を持っていただくことができた。

○櫻井委員

・コロナ禍ということもあり、施設では黙食や部屋に戻って食事を行っている時期があったが、要支援から要介護になるといった症状の悪化が見られた。

・オーラルフレイルも黙々と食べて栄養を摂取するのではなく、皆様と話をしながら楽しく食べることが大切であると思った。

・コロナが落ち着いた後には歯科衛生士も活用していただき、地域でのお口の体操に参加ができるといいと思っている。また、介護保険が受けられていない方も予防ができるように企画を考えていくことが大切だと思った。

○佐々木委員

・誤嚥性肺炎の方は増えたのか、皆さんの感触をお聞きしたい。

○木村委員

・誤嚥性肺炎の方が増えたかはわからないが、コロナ禍のため、外出をしない、他者と交流しないことから認知症が進行した方が、特にひとり暮らしの方で増えたと感じている。オーラルフレイルから誤嚥性肺炎となる方が増えてしまう懸念は十分にあると考える。

○長岩会長

・今年の3月に厚労省がケアマネジャー向けに出した「適切なケアマネジメント手法の手引き」に、誤嚥性肺炎の予防が明確に入ってきており国が重視していることが伺えた。



3. 報告

- (1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について
- ・事務局より説明。

4. 閉会